

NPO法人独立映画鍋 × 第21回東京フィルメックス × 第33回東京国際映画祭 共催

# インディペンデント映画の 未来と映画祭

11.3 [火] 16:00 開始 18:00 終了 予定

オンライン開催 | 無料

視聴URLは独立映画鍋公式サイト及びSNSにてお知らせします

映画祭は映画の未来のための場です。特にインディペンデント映画にとっては、多様な作家の才能が見出され、顕彰され、世界に羽ばたくチャンスを得られる大切な場があります。今、新型コロナウイルスにより、世界中の映画祭の多くが中止や延期、規模の縮小を余儀なくされています。そして、何よりも映画製作自体が困難を強いられています。この状況の中、東京フィルメックスと東京国際映画祭は連携を深め、初めて同時期に開催されることとなりました。本シンポジウムでは、両映画祭のディレクター/プログラマーに出演いただき、海外の映画祭関係者ともオンラインでつなぎ、あらためて映画祭の意義とインディペンデント映画の未来について語り合いたいと思います。

Part.1 東京国際映画祭と東京フィルメックスより

Part.2 海外の映画祭より

Part.3 映画監督より

【司会】

植山英美 Emi Ueyama 海外セールス・プロデューサー/独立映画鍋会員

【出演】

市山尚三 Shozo Ichiyama

東京フィルメックス ディレクター



1963年生まれ。松竹、オフィス北野をベースに主に海外の映画作家の作品をプロデュースする。主な作品にボウ・シャオシェン監督「フワフワズ・オブ・シャンハイ」、カンヌ映画祭審査員賞を受賞したサミラ・ママルバフ監督「ブラックボード」、カンヌ映画祭脚本賞を受賞したジャ・ジャンクー監督「罪の手ざわり」等。1992年から1999年まで東京国際映画祭の作品選定を担当。2000年に映画祭「東京フィルメックス」を立ち上げ、ディレクターを務める。  
filmex.jp/2020/

矢田部吉彦 Yoshihiko Yatabe

東京国際映画祭 シニア・プログラマー



仏・パリ生まれ。2000年より映画配給と宣伝を手がける一方で、ドキュメンタリー映画のプロデューサーや、フランス映画祭の運営業務に携わる。2002年から東京国際映画祭へスタッフ入りし、2007年から2019年まで作品選定ディレクターを務める。2020年からシニア・プログラマーとして引き続き同映画祭の作品選定に携わっている。  
2020.tiff-jp.net/ja/

ジュリアン・ロス Julian Ross

ロッテルダム映画祭プログラマー、元ロカルノ映画祭プログラマー



映像研究者、映像キュレーター。ロッテルダム国際映画祭プログラマー、ライデン大学社会芸文センター准教授。Netherlands Film Academy's MA Artistic Research in and through Cinemaのメンター。ロカルノ国際映画祭プログラマー(2018-20)他、Tate Modern, Art Institute of Chicago, EYE Film Instituteなどで日本の実験映画を中心に映画・パフォーマンスを紹介する。

ステン・サルウエール Sten Saluveer

カンヌマーケット、ブラックナイツ映画祭インダストリー担当者



東京大学大学院卒、イノベーションストラテジスト、映像プロデューサー、コンテンツ&テクノロジー起業家。ブラックナイツ国際映画祭でのインダストリー部門、Storytekの創設者、またカンヌ映画祭併設マーケットMarche Du Filmのオンライン部門責任者。Exit Academyなどでワークショップも開催している。

アリックス・アイン・アルンパク Alyx Ayn Arumpac

映画監督/[アスワン](第21回東京フィルメックス出品作品)



フィリピン出身のドキュメンタリー映画作家。ポルトガル、ハンガリー、ベルギーの3国にまたがる映画学校「ドック・ノマズ・エラスムス・ムンドゥス」でドキュメンタリー製作の修士号、フィリピン大学で映画の修士号を取得。また、マニラの主要テレビ局にて短編ドキュメンタリー作品を監督・プロデュースしている。タレント・トーキョー 2015に参加。最新作「アスワン」が第21回東京フィルメックス・コンペティションに選出される。(10/30,11/2上映)  
filmex.jp/2020/program/competition/fc6

広瀬奈々子 Nanako Hirose

映画監督/[つつんで、ひらいて](第20回東京フィルメックス出品作品)



武蔵野美術大学卒業後、2011年より分福に所属。是枝裕和監督のもとで監督助手を務め、「海街diary」海よりもまだ深く」などに参加。19年「夜明け」でオリジナル脚本・監督デビュー。第23回釜山国際映画祭出品。第19回東京フィルメックスでスペシャル・メンションを受賞。長編2作目となる「つつんで、ひらいて」でも第20回東京フィルメックス、ライブチヒ国際映画祭など多数の国際映画祭に出品した他、米ビッツバーグ大学「日本ドキュメンタリー映画賞」を受賞する。  
magichour.co.jp/tsutsunde/

深田晃司 Koji Fukada 映画監督/独立映画鍋共同代表

「本気のしるし(劇場版)」(第33回東京国際映画祭出品作品)



1980年生まれ。「歓待」「ほとりの朔子」「さようなら」などが各国映画祭で上映される。16年『潮に立つ』で第69回カンヌ国際映画祭「ある視点」部門審査員賞受賞。18年インドネシアにて『海を駆ける』を撮影、同年フランス芸術文化勲章「シュバリエ」受勲。19年『よこがお』がロカルノ国際映画祭コンペティション部門にて公式上映。20年「本気のしるし」で第73回カンヌ国際映画祭オフィシャルセレクション2020に選出される。  
nagoyatv.com/honki/

船橋淳 Atsushi Funahashi 映画作家/独立映画鍋会員

「ある職場」(第33回東京国際映画祭出品作品)



東京大学卒業後ニューヨークで映画制作を学ぶ。「echoes」(2001)が仏アノネー国際映画祭で審査員特別賞・観客賞。「ビッグリバー」(2006)、「フタバから遠く離れて」(2012、独エドワード・スノーデン賞受賞)、「桜並木の満開の下に」(2013)など5作連続ベルリン国際映画祭へ正式招待の快挙。近作は「ホルトの恋人たち 時の記憶」(2018、主演柄本佑キネマ旬報最優秀男優賞)。新作「ある職場」が東京国際映画祭でワールドプレミア(11/4、8)となる。  
atsushifunahashi.com

お問い合わせ

NPO法人独立映画鍋

Tel : 070-5664-8490 (11:00-18:00)

E-Mail : info@eiganabe.net

http://eiganabe.net/

@eiganabe @eiganabe